

生産者の要望に応える

ドローンで玉ねぎの病害虫防除

2月2日(土)

2月2日から、生産組合などの玉ねぎ圃場で、ドローンによる病害虫防除薬の散布を開始しました。

当JAは、JA自己改革の基本目標「農家組合員の所得増大・農業生産の拡大」の中で、玉ねぎを園芸戦略5品目（キャベツ、玉ねぎ、じゃがいも、人参、ブロッコリー）の1つとして学校給食向けとしても作付けに取り組んでいます。昨年からのドローンの導入で作業の省力化が図れたこともあり、栽培面積は昨年の108アールから44アール増えて152アールとなりました。

南宮農経済センターの田中センター長は、「ドローンを導入して2年目となり、生産者から期待され要望も多い。高齢化や担い手不足で、昨年はドローンの活躍をたいへん喜んでもらうことができました。今年も生産者の作業負担を軽減するお手伝いをしていきたい」としています。



玉ねぎ圃場で、ドローンによる病害虫防除薬の散布を開始。昨年以上のドローンの活躍が期待されています。